観光について　その２

細谷　和宏

先月に引き続き中国観光についてお勧めの観光地を紹介させていただきます。先月のレポートでのちに上海方面と西安・九寨溝方面に行く予定なので紹介させていただくとお伝えしましたが、機会がなく上海方面はいまだ行けてないので、西安・九寨溝方面だけのレポートになってしまうことをお許しください。

上海方面は日本からいくらでも便利なツアーがありますし、私がレポートするまでもない情報量が日本語のガイドブックで得られると思うので申し訳ありませんが上海方面の報告は以降も省略させていただきます。その代わりといってはなんですが、あまり情報量の多くない秘境の九寨溝等の情報をできるだけガイドブックにない情報までもお伝えできればと思います。

兵馬俑、華山（いずれも西安からアクセス）、パンダ繁殖研究基地、九寨溝、黄龍（いずれも成都からアクセス）について報告させていただきます。

１　兵馬俑（へいばよう　bingmayong）博物館

まず西安（せいあん　xian）を目指します。西安へは、太原から夜行列車で１２時間。初めての中国での夜行列車でとても不安でした。なにせ中国人の中に数人の外国人が混じって１２時間過ごすのですから。三段ベッドの向かい合わせ計６ベッドがワンスパンになる一番安価な夜行寝台を買います。ここでお勧めですが、三段ベッドでは必ず一番下のベッドを指定してください。確か中段、上段より１０元（１６０円）くらい下段は高いのですが、絶対に使い勝手がいいです。食事をしたり、みんなでトランプをしたりと長いソファーを一人で独占しているようなものですので、二人連れなら向かい合わせの下段２席の指定をお勧めします。ただし、中段、上段の人も遠慮なく下段の空いたところに座ってくる場合があります。そういった場合は座らせてください。これが中国の寝台列車のルールみたいです。ただ、昼間でも寝たいのでどいてくれって言えば（あるいはジェスチャーで）どいてくれますから安心してください。外国人だと分かると遠慮して座らない場合もあります。荷物は、下段ベッド下に大きな荷物が収納できると思います。私はちょっと大きめなディパックだったので網棚に簡単に乗りましたが、スーツケースなどはここに収納することになります。私は今後のためにと実測でベッド下の高さを測ったら３０センチくらいあったと思います。ただこの数値はあくまで目安としてください。実感として大型のハードケースは無理かもしれません。

それと、これだけはお伝えしなければと思うのはトイレの事情です。結論から言うとトイレ使用には相当の覚悟がいると思います。そもそもトイレは汚物

処理場なんだと覚悟してください。新幹線でトイレを利用したことないので分かりませんが、その他の列車はたぶん全部同じタイプのトイレだと思います。なにせ私が山西大学の寮に来たときトイレがいやでしょうがなかったのに、寮に帰ったらなんてきれいなトイレなんだと思えるようになったのですから。足載せは汚水だらけ、汚物は流れない、かごにはトイレットペーパーがあふれるなんてことが当たり前です。

話を戻します。西安駅には早朝着です。駅前から兵馬俑まではバスが出ています。料金は１５０円ほど、時間は４０分くらいかかったでしょうか。

兵馬俑は、ご存知のとおり、１９７４年に井戸を掘っていた農民によって偶然発見された始皇帝を守るために制作された兵士や軍馬の等身大の陶器です。１７０センチを超える兵士が何千体も立つさまは圧巻です。現在、四つのブースが公開されており（２０１４年度版日本のガイドブックには３つとなっている。)、それぞれ発掘の状況をそのままドーム状の屋根を施し保存されています。

等身大の彫像　何千と並ぶ

２　華山（かざん　huashan）

西安から更に列車に揺られ２時間ほどで华山（華山）駅に到着します。そこからバスで２０分ほどするときれいな登山口の施設が現れます。そこで改めてマイクロバスに乗り替えいよいよ登山口に着きます。そこからは大まかに言って二通りのルートの選択となります。ひとつはケーブルカーでほとんど山頂まで登ってしまうコースと始めから登山するコースです。

実は帰寮してから分かったのですが、まったく偶然に同じ日に別の留学生が華山を登山したとのことでした。帰ってから休みはどこか行ったかと聞くとそ

の黒人の彼は中国人の彼女と登山コースを登ったとのことでした。全部の行程を登山すると約８時間かかり、軍手をして石山をつかみながらかなりきつかったそうで、彼はその後２日間寮で寝込んだそうです。基礎体力が違う黒人がこんな有様なので、よほど自信がある人を除けばやはりわれわれのようにケーブルカー利用をお勧めします。

華山　岩山を一気に上るケーブルカー

３　パンダ繁育研究基地

ここからベースキャンプを成都（せいと　cheng du）に移します。西安から列車で朝から深夜まで丸一日の移動になります。成都では前もって予約しておいたユースホステル（一泊８００円）に宿泊しました。パンダ繁育研究基地は成都から公共バスを２路線乗り継いで行きましたが、慣れない方はタクシーでもたいした料金にはならないと思います。当施設は言わずと知れた四川のパンダ生息地に近い繁殖を目的とした施設です。私は他の留学生に日本人はたぶんほとんどの人は日本にいるパンダを見たことはあるのでどうしても触ってみたいから料金を聞いてくれと頼んだところ、中国語が堪能な他の留学生が係の人に聞いてくれたところ日本円で３万２千円（２０００元）との回答でした。触るだけでと思いましたが、おそらくこの資金は当施設の運営費に充てられる寄付金的な意図があるのではないかと思います。触りたいのはやまやまでしたが、もちろん額を聞いて断念しました。一生触れることはないのでどうしようか悩んでいたところ、友人から目をつぶって大きな犬をパンダ、パンダと唱えてなでろと言われました。

ここでは、パンダが猿山のように至るところにいて、木に登ったり竹を食べ

たりじゃれあったりしているパンダが見られます。ちなみにある留学生の話では、パンダは朝が一番活発に動くのでその時間を逃すとあとはおしりを向けて寝ているだけなので朝一に行こうというので行ったところ、やはり正解でした。活発に動くパンダはあまり上野では見られないと思います。

屋外飼育のパンダ　上野とは表情が違う　一生懸命笹を食べる

４　九寨溝（きゅうさいこう　jiu zhai gou）

私が中国で一番訪れたかった夢の地です。中国に留学する前に日本のテレビで紹介されたのを観て以来とりこになりました。どうやったら行けるのかを調べたところ、かなり海外旅行上級者でないと個人ではたどり着けない気がして半分あきらめかけていたところでした。ツアーでもオンシーズン（あとで述べますがオフシーズンは行く価値がないと思います。）なら２０万円はかかる旅行地です。同じような額でカナダやオーストラリアに行ける昨今お隣の国に一観光地だけでこの額は、と少し尻込みしてしまいそうです。

今回の旅行は全日程１０日間を留学生みんなで話し合い、その場その場で交通手段、宿泊場所、観光地を決めてバックパッカーのように歩いたのですが、どうしても僕がこの地に行きたい、これは僕の夢だ、もしみんなが行かないのであれば、僕は一人で行ってくると熱望したところ、全員が賛同してくれて決定した次第です。当地のために旅行全体の４日間を費やす結果となってしまいましたが、他の留学生もすごく行ってよかったと言ってくれました。

九寨溝とあとで述べる黄龍は、成都からバスしか交通手段はありません。一般のバスだけですと往復で５０００円ほどかかりますが、いろいろ調べた結果、二泊九寨溝のホテル付全食事付往復バス代込みでなんと６５００円の現地ツア

一を見つけたのです。実は同時期に他の留学生も当地を訪れていたのですが、全部バラバラに取ったので、倍近くかかったとのことでした。

九寨溝はエメラルド色の湖が四方に点在する景勝地です。この素晴らしさは見ていない人にはいくら言葉で話しても伝わらないと思います。また、九寨溝は湖だけでなく、大小さまざまな滝も見どころです。

九寨溝　この色は何！湖底が全部見える

５　黄龍（こうりゅう　huang long）

私は九寨溝より本当はこちらが見たかったのです。

黄龍は、大量の酸化カルシウムを含む水が何千年、何万年の歳月を要して棚田のような池を無数に作り出したユニークなもので九寨溝とともに世界自然遺産です。確か前に日本のテレビで観たときに、１００年かけても棚田のへりは数ミリの高さにしか成長しないと言っていたと思います。

ところが残念だったのは、雪解け水が満足にない時期だったので池の水が満足にないばかりか滝にもまったく水が流れていないことです。それでもいくつかの池は満たされエメラルドグリーンの極楽にでもいるような景勝を見せてくれました。冬場や早春はもしかしたら池に水がまったくない時期もあるかもしれません。

黄龍　段々畑のような池

６　全体の感想

今回の旅行は、４月下旬から五月初めにかけての１０日間の日程で行ってきました。すべてにおいてもっとも安いであろう方法を選択したので、当然列車は２等席、もちろん飛行機などは使いません。丸一日移動だけに費やしたこともあり、とにかく時間勝負の日本の旅行とはまったく違った旅行ができました。私が素直に驚いたのは、このように他の留学生はとてものんびりしていることでした。決してあくせくして日程を組むことなどみじんも考えていないことです。例えば、一時間に一本あるかないか分からないようなバスが目前で行ってしまっても全然平気です。行った後に歩道のへりに座って雑談をして過ごします。日本人の旅行は分刻みのスケジュールで行動しますが、疲れたら次の日は何もしない日を作るのです。日本人の私にとって理解できない面が多々ありました。日本人は、次の行き先が決まっているのならまずチケットを買ってから観光しようと思うでしょうが、何があるか分からないから遊んでからチケット買おう、そのとき売り切れだったらもう一泊しよう、つねにこんな調子です。日程をタイトに組んで疲れ果てる日本人海外旅行客とは大違いです。大いに刺激されました。

最後になりますが、このことだけはお伝えしたいことが二つあります。

まず、中国の自然観光地開発の根本的な考え方です。もちろん、これから述べることはすべて私の私見であり、私はなんら公的な責任のない者なので言ってしまうわけです。独り言として聞いてください。

どういうことかと言うと、例えば、黄龍に行ったときにびっくりしたのは、

下の写真のように堂々と何千年、何万年かけてできた棚田様の池の中に観光客が歩くための遊歩道を基礎を埋めて立ててしまうのです。確かに眼下にエメラルドグリーンの池を誰もが見たいと思います。でも、この池のヘリの堆積物は何千年、何万年と誰も手を付けずに変わらぬ水の流れがあってこその景勝です。それをいとも簡単に地球の歴史からいえば、ほんの瞬きをするくらいの時間で一気に観光地に変身させてしまうのです。もちろん建築には相当の知識人の意見が反映されてのことでしょうが、私はこのことで水の流れが若干でも変われば何千年後には必ず何らかの影響があると思うのです。例えばいくつかの池には今までと違って水量が減り、藻が発生して池自体が消滅することもあるかもしれません。

中国にとって多くのこれら世界自然遺産は、国内に外国人を呼び込む一大国家プロジェクトのドル箱であることは分かります。歩きやすい環境にしてより多くの観光客を国内外から集めたいのは実感として理解します。でも、本当にこのようなコンセプトで開発を進めていいのでしょうか。各自然遺産の入口には何十メートルもある大きなゲートを作り、両側には土産物屋、食堂を作りデジタルチケットで入場する、これでいいのでしょうか。私は秘境中の秘境の地に訪れたかったのです。やっとの思いでたどり着いて眼下に信じられない自然を目にしたかったのです。

確かに日本でも世界遺産となった富士山には中腹まで舗装された道路が整備され大型バスで行けます。世界遺産に人工物を作っているのは同じじゃないかと言われれば確かにそうです。でも、今だから改めるべきところは改める必要があると思うのです。昨今の中国の発展ぶりをみて他にも根本的にベクトルの方向が違うんじゃないの、と思える場面が多々ありました。

次に私が感じたのは少数民族の扱いです。中国には５６の民族がおり、そのうち５５の少数民族がいるそうです。中国の地方に分散する自然遺産の多くはこれら少数民族居住地の至極近隣に存在します。地方各地が先に述べたように一大プロジェクトであたかもテーマパークのように開発され始めたのはつい最近のことです。どこの自然遺産に行っても膨大な駐車場を確保し、大型バスが停車でき、多くの土産物屋、レストラン等の近代設備を備えています。

何千年も前から当地に居住していた少数民族は、今どのように生活をしているかが問題なのですが、それらの観光地の大型バス停車場に女性が民族衣装を着てアクセサリーなどを売り歩いています。各バスに乗り込み発車待ちの観光客相手に手にぶら下げたアクセサリーを売るのです。ここからは想像ですが、これらにより遊牧をしてやっとの思いで手に入れた現金より簡単な現金収入の道ができたのだと思います。しかも、それらアクセサリーはどう見ても石ではなくプラスチックにしか見えない、どの女性が持っているのもまったく同じものです。おそらく中国都市部で大量生産された物を安く仕入れて売っているのだと思います。簡単に手に入れた現金は、当然ながら生活を以前とは比較にならないほど豊かにしたのだと思います。ツアーで何か所か少数民族の集合住宅群に立ち寄りましたが、山裾の家々は確かに都心部では見ない造りをしていて珍しく拝見させていただきましたが、裏に回るとパラボラアンテナやエアコンの室外機やアディダスのＴシャツが物干しに干されているのです。観光客のために民族衣装でダンスを披露していた人たちの住宅です。おそらく、われわれが知らない普段の生活は都心部のそれと今は大差がないのではと思うのです。

これら少数民族の生活は、中央のこのような政策によって画期的に豊かにな

り、大変喜んでいるとは思います。でも、このままこのような政策を続けることがいいのでしょうか。

日本でもかつて北海道にアイヌ民族が生活していました。今は生粋のアイヌ民族はほとんどいなくなり、観光用に民族衣装を着るだけとなっています。まさにこのことを中国では今突き進んでいるとしか思えないのです。

私はもし中国の少数民族に興味がある方がいらっしゃったら、なるべく早く旅立った方がいいと助言させていただきます。私も大変少数民族に興味があるので、できたらここにいる間に何か所かそれら地方に旅行したいと考えています。香港やマカオは逃げないのですから、ぜひ先にこちらを旅行してください。